

2020年 7月 浜松聖書集会のご案内

(時間: 午前10時 ~ 正午)

○ 7月 5日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会: 大屋 智代 感話: 榎本 潤
聖書講話: マルコによる福音書 4章21~ 41節
「三つのたとえと湖の奇跡」 水戸 潔

○ 7月 12日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会: 大手 美千代 感話: 生江 扶左子
聖書講話: ローマの信徒への手紙8章19~22節、イザヤ書11章6~9節
「ル・グイン著『オメラスの国』から考えること」 永井 徹

○ 7月 26日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会・感話: 溝口 春江
聖書講話: イザヤ書 1~39章 (第一イザヤ書 まとめ その2)
「立ちかへりて静かにせば救をえ、平穩 (おだやか) にして依頼 (よりの) まば力をうべし」
武井 陽一

.....通信.....

○ 「みざわ」第60号 (2020年) 原稿募集の要領 は以下の通りです。

原稿字数: 2000~2500字 (400字詰め原稿用紙5~6枚程度)

①縦書きをお願いします。②枚数が多くなる場合には事前にご連絡下さい。③聖書引用の場合、
章は「漢字」、節は「算用数字」、④年月日は「漢数字」でお書き下さい。

内 容: イエス・キリストを信ずる心、信仰を求める心から 書かれたものなら内容は自由です。

締め切り: 2020年7月31日 (本年は、編集者の都合上、可能な限り守ってください。)

送り先: メール投稿は、y-takei@mve.biglobe.ne.jp 武井

郵送は 〒433-8112 浜松市北区初生町972-1 武井陽一

○ 見よ、今は恵みの時、救いの日 溝口 正

光は、すでに来ているのです。眼帯で目隠しをして闇の中に留まることが問題なのです。目隠しを取りはずしさえすれば、光は照り輝き、救いの恵みはもたらされるのであります。私たちの心の扉をたたき、呼びかけたもうイエス・キリストの御声が聞こえます。

今は恵みの時だから、恵みを受け取りなさい。 今は救いの日だから、救いにあずかりなさい。

今は光が照らしているから、目隠しを取りなさい。 耳栓をはずして、わたしの声を聞きなさい。

生けるキリストは、聖霊として全世界を駆け巡り、罪のあがないと復活のいのちを与え続けておられます。救いの恵みは、目隠しを取り、耳栓をはずせば、たちまち明るく見え、よく聞えるようになります。

この世は悲しいこと、苦しいこと、不可解なことが一杯あります。その原因は、人々が罪と死の支配を愛し続けているところにあると考えられます。この世が苦難、不条理、矛盾、罪悪、憎悪、争いなどが満ちていることは紛れもない事実であります。そのために私どもは人知れず涙を流したことが幾度あったことでしょうか。

しかしそのような暗闇のこの世にも、すでに光が来ていることをお話してきました。神の救済の車は、明らかにこの世に到来し前進し続けております。今は恵みの時、救いの日であります。これが今の時代の本質であります。ここに人生の根本を据えますならば、私どもはキリストにあって救いの恵みに包まれて、感謝と平安に満たされて生きることができます。現実には、いろいろと困難な問題が迫ってきますけれども、人間にとって、また、世界にとって根源的な問題は、すでにキリストにあって解決済みでありますから。後の問題は気楽に、悲愴感に落ち入らずに対処していけばよいのであります。軽やかに、楽しく、時には鼻歌交じりで、しかし誠実に真剣に対処すればよろしいのではないのでしょうか。あとは愛にある神が最善をなして下さいますから、安心してお任せすればよい。

すでにこのような救いにあずかっている者は、この感謝と喜びと平安の源泉であるキリストの福音を、人々に伝える責任があるのではないのでしょうか。 (「復活」340号 1995年1月)